

Chapter5

これからも続いていく広報あらお 未来へのバトンはつながれていく
~ Public Relations that will continue in the future ~



Chapter4

広報あらおを読んでもくれる皆さん
~ Readers of Public Relations ~

広報あらおが67年もの長きにわたり続いてこられたのは、読んでくれる皆さんがいればこそ。市民の皆さんに、広報紙について伺いました。

子どもたちの社会勉強にも
役立っています

最初に「まちの話題」はチェックします。市内のイベントの情報収集にもなりますし、友だちの家族が載っていたりもするので探すのが楽しみです。ママ友だち同士でも話題になったりしますよ。私の場合、子育て系のイベントに限らず、子どもたちにはいろいろな経験をさせてあげたいと思っていますので、「試験・募集・イベント」のなかで、子どもたちでも大丈夫そうなものには参加しています。5月の里山マルシェでは、玉ネギを収穫した子どもたちは大はしゃぎでした。市内の大小のイベントが一覧できるのは広報紙だけだと思います。今後にも期待大です。



なかしまちづる ゆうや あかり
中島千鶴さん、優弥君、朱莉ちゃん
(普源寺)

表紙と裏表紙は必ずチェック
しています

手に取ったとき、まずは表紙と裏表紙はいつも見えます。目を引くものだとそのままでも読んでしまいますね。良く読むコーナーは「まちの話題」と「保健・健康」。「まちの話題」には知り合いが写っていることもあるので、知らせたりすると、喜んでもらえます。「保健・健康」は年齢的にも体のことは気になるので健診の案内などは欠かさずチェックしていますね。目にごみが入ってしまえば日曜日はどうしても眼科に行かなければならなかったとき、休日当番医のコーナーには本当に助かりました。これからも市民の生活に根差した情報を掲載してください。



こもたやすむ ちづこ
孤田休さん、千鶴子さん
(川後田)

「写真載ってたよ！」で会話
のきっかけに

広報あらおは市民の写真が多く載っているの、友だちや知り合いとのコミュニケーションのきっかけになります。イベント情報なども、小さい子ども向けから大人向けまでいろいろと掲載されているので、それぞれ子どもたちの年齢にあったイベントに参加しています。二男は以前生物教室に参加し、「新しい友達も出来て楽しかった」と話していました。1歳の誕生日を祝うコーナー、題字募集や1月の笑顔の表紙コーナーなど、市民が参加できる企画もあるので、積極的に参加できます。広報紙作りに参加できた気分です。広報紙ですし、思い出にもなります。



くすもとようこ ゆうたろう じゅんぺい そうすけ
楠本洋子さん、侑太郎君、純平君、崇介君
(山浦)

荒尾市に広報紙が誕生した昭和25年。日本は戦後の復興期に入っていました。それから67年の月日が過ぎる中で、日本はその様相を大きく変え、荒尾市に住む私たちの生活もまた時の流れとともに変化してきました。

寺田佐平市長(当時)の「市民の皆さんの期待にそうように市行政のありかたを推進したい念願」で創刊された広報あらお(当時は荒尾市報)も、さまざまに変化してきました。しかし、根本に流れる魂はずっと変わっていません。「あなたとまちをつなぐ情報紙」、表紙に刻まれるこの言葉は、その魂の表れ。市民に寄り添いながら、市民とまちをつなぎ、市民同士をつなぎ、その関わり合いの中で新たなまちを作りあげていく、広報あらおはこれからもその役割を果たしていくことでしょう。

インターネットをはじめとしたデジタル技術の普及により、ホームページやSNSなど情報発信の方法はますます変化しています。そして、広報あらおも変化し続けていきます。紙媒体という形態すら変わるかもしれません。どんな形であれ、広報あらおはこれからも荒尾の「今」を伝え続けます。

「過去」の荒尾を引き継ぎ、「今」の荒尾を伝え、「未来」の荒尾へとつなげていく、広報あらおのバトンはこれからも続いていくのです。

広報あらお 1500号到達記念特集 終わり